

第6章 食育推進計画

1. 基本理念

食は、ひとづくり、まちづくり

日本の平均寿命が過去最高を更新する中、人生をいかに元気に、かつ心豊かに過ごすかが、すべての人の大きな課題となっています。健全な食生活を送ることは、非常に重要なことであり、みんなの願いでもあります。

しかしながら近年、社会環境やライフスタイルの変化、価値観の多様化などによって「食」をめぐる状況が変わってきています。食の欧米化・外部化による脂質の過剰摂取や野菜の摂取不足、朝食の欠食など、食生活の乱れが肥満や生活習慣病の増加につながっており、深刻な社会問題となっています。

また、単独世帯の増加や地域とのコミュニケーションの希薄化により、家族や友人と楽しく食卓を囲む機会が減少しています。

南丹市では、健康で豊かな人間性を育むためには、健全な食生活を送ることができる環境づくりが重要と考えます。

豊かな自然に恵まれた南丹市では、多くの野菜が育ちます。地域で採れた、安心安全で新鮮な食材を地域で消費する仕組みをつくっていくことが大切です。また、たくさん採れる野菜を先人の知恵で保存し、地域の祭事や四季の行事に楽しみに食するものとして、伝統食もたくさん受け継がれています。

この豊かな食文化を継承しつつ、市民一人ひとりが南丹市に愛着と誇りを持って、健康で心豊かに生活していくため「食は、ひとづくり、まちづくり」を基本理念とし、南丹市の食育を推進していきます。



2. 分野別の取り組み

(1) 食生活と健康

食と健康は密接な関係にあり、健康づくりにはバランスのとれた食生活や規則正しい食習慣が重要です。食生活や食習慣の乱れなどが原因とされる生活習慣病は、現在の日本において大きな問題となっており、生活習慣病予防に積極的に取り組む必要があります。

取り組みテーマ

食を通じた心と身体の健康づくり
～早寝・早起きをして、おいしい朝ごはんを食べよう～

◆南丹市の現状と課題

バランスのとれた適切な量の食事を1日3食規則正しく食べられている人が少ない現状があります。特に、40歳から64歳までの働き盛り世代では、男女ともに朝食をほぼ毎日食べる人の割合がここ5年で減少しています。また、夕食後に間食が週に3回以上ある人の割合が、特に65歳以上男性で大きく増加しています。一方、特定健診の結果では、40歳から血圧に関する有所見者が増加しており、減塩を意識した食事を地域ぐるみで進めていく必要があります。

忙しく、生活習慣が乱れがちになる人に対して、食生活や食習慣の大切さをどのようにして伝え、効果的に改善につなげるかが大きな課題となっています。

また、南丹市は米や野菜の生産地であるにもかかわらず、1日に350g以上の野菜を摂る人は50%以下という現状があります。野菜の上手な摂り方を発信するなど摂取量の増加に向けた取り組みが必要です。

◆実践目標

- ①朝ごはんを必ず食べよう
- ②減塩に取り組み、素材の味を楽しもう
- ③1日350gをめざし、野菜摂取量を増やそう

◆今後の取り組み

市民の取り組み

- 早寝早起き朝ごはんを習慣づけよう。
- うす味を心掛け、減塩に取り組もう。
- 小鉢一皿分の野菜を増やそう。
- バランスの良い食事を摂ろう。
- 1日3食きちんと摂ろう。
- よく噛んで味わって食べよう。

支援・促進

地域や関係機関・団体・教育機関の取り組み

- 朝ごはんをきちんと食べることができる環境づくりを進めます。
- 小鉢一皿分の野菜摂取の必要性や量をわかりやすく伝えます。
- 朝食の大切さを伝える取り組みを推進するとともに、自分でつくれる朝食レシピを紹介します。
- 保育所、小・中学校給食は、うす味、野菜たっぷりを心掛けます。
- 親子で楽しんで取り組めるイベントや場を提供します。

南丹市の取り組み

- 南丹市版食事バランスガイドの活用や各種講座などを通して、多角的に食事の適量やバランスについて正しい情報提供と積極的な発信に努めます。
- 各種健診や教室など様々な事業を通して、生活リズムを整えるための指導・助言を実施します。
- 食事調査を実施するなど、実状の把握に努め効果的な事業の実施につなげます。
- 尿中塩分測定事業を検討・実施することで、実績の出せる減塩啓発に努めます。特に子どもころからの減塩推進に努めます。
- 料理教室や講座、食育だよりなどを通して野菜や果物の上手な摂り方を発信します。
- 若い女性や働き盛りの男女など働きかけが難しい世代に対しても、実状の把握と共有に努め、食生活の大切さを効率良くPRできる事業を検討・実施します。特にインターネットの活用などにより、若者、働き盛り年齢への取り組みを工夫します。
- 食に関する正しい知識を持つ人を増やすため、若い層の食生活改善推進員を積極的に育成できるよう支援します。
- 健康で長寿の方の秘訣を紹介するなど、健康への意識の向上を図ります。

(2) 食文化の継承

豊かな自然に恵まれ、四季折々の食材が豊富な日本では、先人の知恵によりつくられてきた多くの伝統食や行事食、作法などの食文化があります。「和食」はユネスコ無形文化遺産に登録され、世界的にも注目されている素晴らしい文化です。

しかし、近年の少子高齢化や地域社会との関わりの希薄化、生活様式の多様化などにより、地場産物を活かした郷土料理や行事食などの優れた伝統的な食文化の保護・継承に危機感が持たれています。

南丹市は、東西に長く、京都府を南北に区切るように位置することから、若狭地方の海産物を京の都に運ぶための「鯖街道」が突っ切る形で通り、先人が大切に育ててきた数多くの優れた食文化が存在しています。長い歴史の中で現代に引き継がれてきたこの食文化を次の世代に伝えていくために、保護・継承する取り組みを推進していく必要があります。

取り組みテーマ

南丹市のよさを再認識し、伝統食・行事食を伝える
～食を通じて世代を超えてつなげよう、つながろう～

◆南丹市の現状と課題

市内の各地域に伝わる伝統食や行事食の保護・継承を図るために、CATV や広報誌などでの情報発信や資料の充実、保育所や学校給食に行事食を取り入れるなど様々な方面から取り組みを実施してきました。今後も食文化の保護・継承のための事業を継続していくにあたり、若い世代にも受け入れられやすい情報の発信方法の工夫や、それらの情報が自然と継承されていくような取り組み方法が課題です。

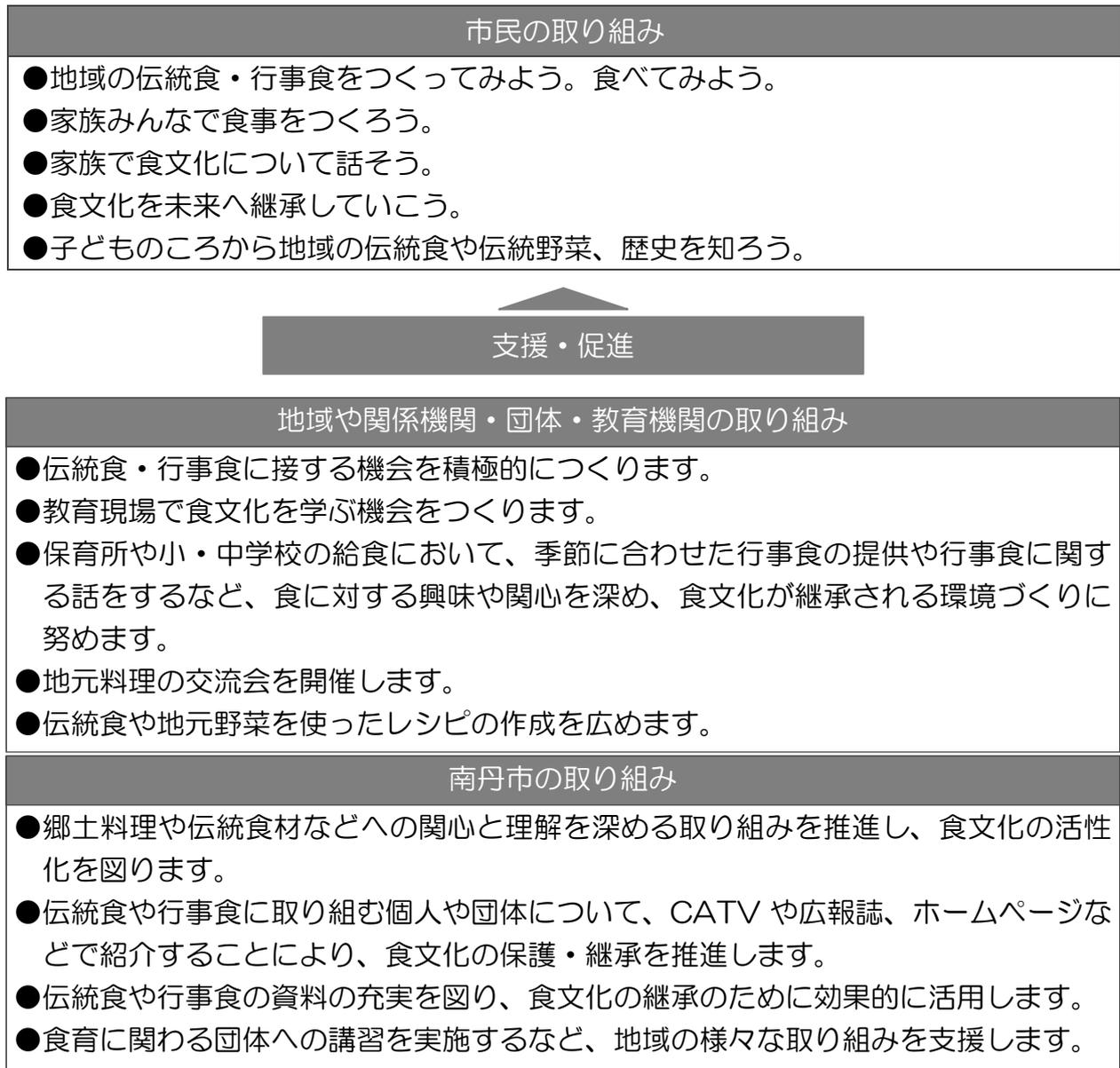
また、南丹市の子どもたちが食に対する知識と望ましい食習慣やマナーを身につけることをめざして、保育所や学校をはじめ様々な機会を通じて食に関する取り組みを実施してきました。家庭の中に広げることの難しさはありますが、継続していくことが重要であり、すべての世代に伝わるような工夫が必要です。



◆実践目標

- ①地域に伝わる伝統食や行事食を知ろう
- ②南丹市の食文化を次世代につなげよう
- ③道具やマナーを含め、和食文化を大切にしよう

◆今後の取り組み



(3) 風土を活かした食育（地産地消）

南丹市内には、自己消費を中心に少量多品目の栽培をしている農家が多く、身近で安心安全な農産物入手することができます。この風土を活かし、地産地消を促進し、それぞれの季節の恵みに触れることで旬を知り食育を進める上で食に対する感謝の念を深めることが大切です。また、食品の無駄を少なくすることも必要です。

取り組みテーマ

南丹市の食に誇りを持つ ～身近にある「南丹市産」を食卓にもっと活用しよう～

◆南丹市の現状と課題

地域においては、小規模ではありますが朝市の開催地が増え、スーパーなどに地元産農産物コーナーができたりと、地元産農産物が買いやすくなっており、それにより地元農家の活性化にもつながっています。生産者と消費者の交流を促進するため食農体験や交流事業の実施、学校ではそれぞれの地域性を活かして地元農家や事業所とつながりながら、農業体験や料理体験など実践型の食育を行ってきました。保育所や学校における給食では、地元食材を活用し地産地消を進めています。

また、市民の自主的な食育に関する活動を支援するため市民提案型まちづくり支援交付金制度を活用し、食育推進の支援を行ってきました。

しかし、地元産食材の利用が十分に広がっているとはまだまだ言えない状況です。

学校給食をはじめとして地産地消を進めるためには、市内で広域的に地産地消を進める仕組みが必要ですが、なかなか進まない現状もあります。

生産者と消費者の交流を進めるために、身近にある南丹市産の農産物について知り、活用するような取り組みを実施していく必要があります。



◆実践目標

①地元産のことを知ろう

②地元産をもっと食卓に、地産地消を進めよう

◆今後の取り組み

市民の取り組み

- 地元産の旬の食材を知ろう、味わおう。
- 地元産の食材を活かした食事をつくろう。
- 食農体験や食にまつわる交流活動に参加しよう。

支援・促進

地域や関係機関・団体・教育機関の取り組み

- 地元産の食材をアピールし「地産地消」を推進します。
- 旬のものや、その食材が持つおいしさを伝えます。
- 保育所や小・中学校の給食で地元食材を活用するなど、地産地消の取り組みを推進するとともに、生産者との交流促進や地域の活性化を図ります。
- 小・中学校において、それぞれの地域性を活かした農業体験や料理体験などの実践型食育を継続して実施します。
- 食生活改善推進員のメンバーを充実し、調理の知恵の伝承に努めます。
- 地元産を使った新しいメニューの開発に取り組みます。
- 生産者の顔が見える、安心安全な食材の流通に努めます。

南丹市の取り組み

- 「きょうと食いく先生」の活動を推進し、農作物の栽培方法や調理方法、京都の食文化など、子どもたちが食について学ぶことを支援します。
- 南丹市の伝統野菜を含めて農畜水産物の産地情報等を提供していきます。
- 地域での地産地消を進めるため、市内各地の朝市マップを様々な活動で配布し紹介するとともに、旬に購入できる情報を発信していきます。
- 南丹市の直売所設置者にアンケートを実施して、めずらしい野菜等を調査し、購入場所を広報していきます。
- 地元野菜を使って家庭でできるメニューを提案していきます。
- つくり過ぎや買い過ぎなどによる、食品廃棄の削減に向けた啓発を行います。
- 市民提案型まちづくり活動支援交付金の利用促進を図り、市民が地域で自主的に食育に取り組む活動を支援します。

(4) 食とコミュニケーション

家族が食卓を囲み、ともに食事を摂りながらコミュニケーションを図ることは、食育の推進においても重要な位置づけであり、子どもへの食育の推進に大切な要素です。

しかし、就労形態の多様化や核家族化などにより、広い年代で孤食や個食が増加し、地域とのつながりの希薄化が顕著になっています。

家族や仲間、地域で食を囲みコミュニケーションを図る食事の場は、心の栄養を考える上でも大事な機会であり、食を通じてつながりを広げる取り組みが必要です。

取り組みテーマ

家族や仲間、地域で食を楽しむ

～食を通じて教わろう、教えよう～

◆南丹市の現状と課題

家族が揃って食事をする機会の減少や地域でのつながりの希薄化によって、「食」に関する世代間の継承がなされにくくなっており、また、調理技術の低下も懸念されています。

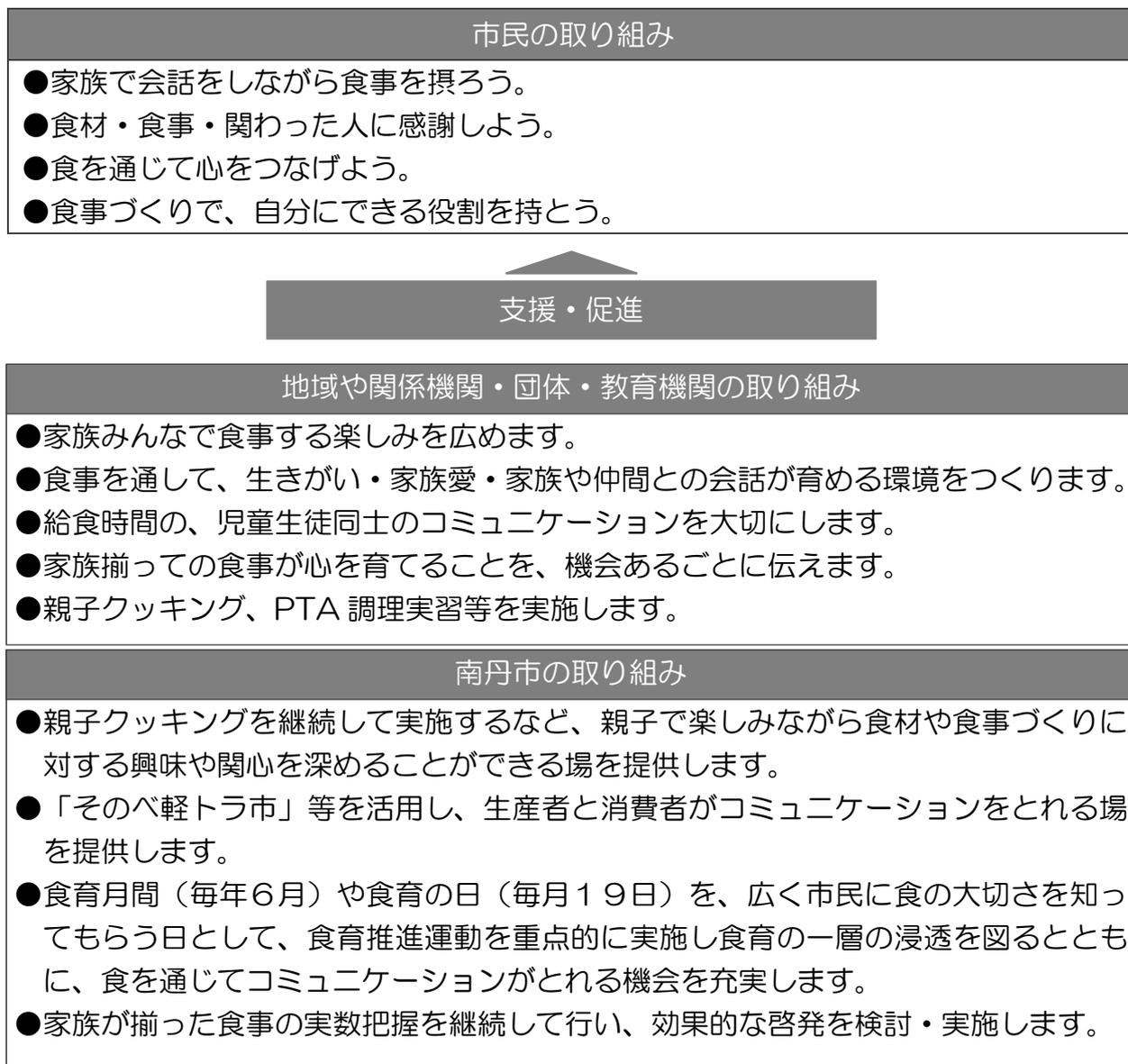
こうした現状の改善を図るため、「弁当の日」の取り組みや親子クッキングの場を提供するなどの事業を展開してきました。実際に料理をすることによって「食」に対する興味が増え、親子のコミュニケーションの充実にも貢献しました。今後も引き続き事業を実施していくことで、「食」を通して家族や仲間、地域のつながりを深めていく必要があります。



◆実践目標

- ①**家族や仲間と一緒に食事をする時間を増やそう**
- ②**役割をもって食事づくりに関わろう**

◆今後の取り組み



食育の総合的な取り組み

南丹市では、地域振興課、農政課、商工観光課、保育所、学校教育課、保健医療課で「食育推進部会」を設置し、定期的に情報を共有することで、総合的かつ効果的な食育の推進に努めています。

主な取り組み

- 南丹CATV「おいしく・たのしく・ごちそうさま」で定期的に情報を発信しています。
- 広報なんたん「食は、ひとづくり、まちづくり」で定期的に情報を発信しています。
- 南丹市食育ロゴマーク活用事業所を募集し、市民に幅広く情報発信しています。
- イベント等を通じて広く食育を発信しています。
- SNSを使用するなど、若い層にも受け入れられやすい食育を発信します。
- 食育推進計画が効果的に進められるよう、協議、実践をしていきます。



南丹市食育ロゴマーク

恵まれた南丹市の食文化を再確認し、食を通して「食と健康」「日本文化の継承」「地産地消の促進」「食を通じたコミュニケーションづくり」を中心に、様々な角度から食育への関心を高め、行動するためのシンボルとして「南丹市食育ロゴマーク」を定めました。



3. ライフステージ別の取り組み

(1) 妊娠期（妊婦とその家族）

妊娠期の食生活は、妊婦の健康だけでなく新しい命にも大きく影響します。また、妊娠前の体型に応じた適正な体重増加が推奨されています。質・量ともにバランスのとれた規則正しい食生活を実践することが重要です。

妊娠をきっかけに、自身の食生活を見直すことで正しい食習慣を身につける必要があります。

取り組みテーマ

「こんにちは、おかあさん」芽生えた命にやさしい食を

◆南丹市の現状と課題

妊娠期の食生活は、栄養不足や過剰摂取などへの注意を払いながら1日3食バランス良くしっかりと食べることが必要です。そのため、パパママ教室の充実を図り妊婦の食事診断の実施や妊婦の体格に応じた適切な体重増加を推進するとともに、妊婦同士が集い、相談し合える場の提供に努めてきました。

今後も、芽生えた命に対して、やさしい食生活を送ることができるように情報の提供と発信に努め、地域全体で守り支えていくことができる継続的な事業の実施が重要です。



◆実践目標

- ①妊娠を機に自分自身の食生活を見直そう
- ②次世代を育むためのバランスの良い食生活を身につけよう
- ③適正な体重管理に努めよう

◆今後の取り組み

市民の取り組み

- パパママ教室などに参加し、妊娠期の食事を正しく学び、赤ちゃんと自身の健康を守ろう。
- バランスの良い食事と適度な運動を心掛けよう。
- 過度な体重の増減に気をつけよう。

支援・促進

地域や関係機関・団体・教育機関の取り組み

- 妊婦やおかあさんを地域ぐるみで支援し、安心して子育てができる環境をつくりま
- す。
- パパ友やママ友など交流の促進を図ることができる環境づくりを進めます。

南丹市の取り組み

- 妊婦の食事診断やパパママ教室を充実させるなど、食に関する正しい情報の周知に努めます。
- 妊婦同士が集い、相談し合える場づくりに取り組みます。
- 妊娠中からの継続した支援事業と連携し、個別の状況に合った食育を進めます。



(2) 乳幼児期 (0～6歳)

乳幼児期は、生涯の中でも最も身体が発育し、味覚をはじめとする感覚機能や咀嚼機能などの発達も著しい時期です。発達段階に応じて、質・量ともにバランスのとれた食事を規則正しく摂取することが大切です。生活リズムが形成されるこの時期は、保護者や周りの大人の力が重要となります。

また、食生活の基礎がつけられるこの時期には、食べる楽しさや食べ物のおいしさを教え、食に対する興味や関心を育む必要があります。

取り組みテーマ

**「おはよう」「いただきます」「おやすみ」
規則正しい生活習慣を身につけよう**

◆南丹市の現状と課題

家庭や地域で「早寝・早起き・朝ごはん」が実践できるよう、乳幼児健診や子育て相談、親子教室などで啓発を行ってきました。保育所では、乳幼児期に大切にしたい「楽しく食べる」「好きなものを増やして、何でも食べる」「朝ごはんを食べる」など、食育だよりなどで情報を発信してきました。

保育所・幼児学園で実施した平成27年度の食事調査では、97%の子どもが毎日朝ごはんを食べていました。

今後も、食事調査を継続して実施するなど、家庭における子どもの食事の実態の把握に努め、乳幼児の心と身体を育む、楽しい食卓づくりができる環境整備を進める必要があります。



◆実践目標

- ①早寝・早起き・朝ごはんの習慣を身につけよう
- ②「おいしい」「楽しい」食を通じて豊かな心を育もう
- ③バランスのとれた食事ですっかり身体をつくろう

◆今後の取り組み

市民の取り組み

- 小さいころから、早寝早起き朝ごはんを習慣づけよう。
- 乳幼児期に適した食事内容を知ろう。
- おいしい、楽しい食卓づくりを心掛けよう。

支援・促進

地域や関係機関・団体・教育機関の取り組み

- 子育てサークル等の取り組みの中で、地元産を使って調理をしたり、伝統的な行事食や、先人の知恵を子どもたちに伝えていきます。
- 保育所・幼稚園で統一した食事調査を行うなど、家庭での乳幼児の食事の実態を把握し、効果的な事業を実施します。
- 保育所・幼稚園では、子どもの五感や食べる意欲を育てるため、楽しい食事体験を増やす工夫をします。
- 保育所・幼稚園では、食育だよりによる情報発信をさらに強化します。

南丹市の取り組み

- 乳幼児健診や子育て相談、親子教室、子育て広場などで「早寝・早起き・朝ごはん」を啓発し、規則正しい生活リズムの確立を図り、バランスのとれた食生活を支援します。
- 尿中塩分測定等を通じて、子どもころからの減塩習慣を広めていきます。



(3) 学童期・思春期（7～18歳）

学童期は、成長発達が著しく身体活動が活発になり、急速な発育と活動に応じた栄養の摂取が必要です。食生活の基礎ができあがるこの時期は、家族や友達とコミュニケーションをとりながら一緒に食事を楽しみ、食に関する正しい知識や技術を身につけられるように学校や家庭、地域が連携した取り組みを進める必要があります。

取り組みテーマ

**「やったー」「できた」「ありがとう」
心の栄養をいっぱい蓄えよう**

◆南丹市の現状と課題

南丹市全域の小学校を中心として、地域住民や行政が協力して取り組んでいる「弁当の日」や地元農家や業者と協力し食農体験を実施するなど、食の自立を推進するとともに、つながりや地域への愛着が持てる取り組みを推進してきました。

平成26年度からはすべての中学校で給食が取り入れられ、学校給食の評価を実施するなど、導入後の子どもたちの変化をしっかりと把握し、次代につなげていく必要があります。



◆実践目標

- ①正しい食事の知識を身につけよう
- ②自分で食事をつくる力をつけ、自信をつけよう
- ③食体験を通じて感謝の心を育もう

◆今後の取り組み

市民の取り組み

- 家族が揃った楽しい食卓を心掛けよう。
- 食事をつくる力を身につけよう。
- 食に関する学びや体験の場に積極的に参加しよう。

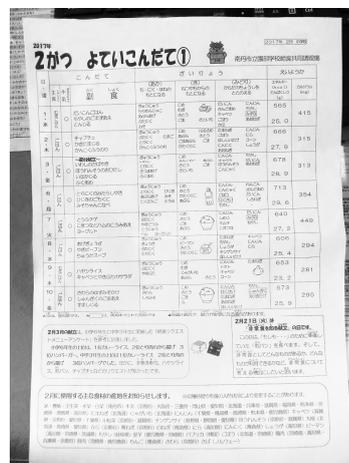
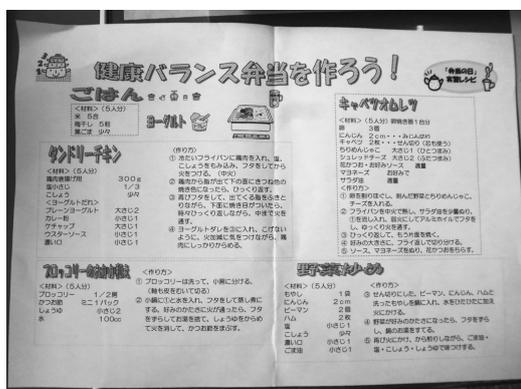
支援・促進

地域や関係機関・団体・教育機関の取り組み

- 小・中学校では、給食だよりによる食に関する情報発信をさらに強化します。
- 中学校では、給食導入後の子どもたちの変化についてアンケートを行った結果を基に、効果的な食育の取り組みにつなげます。
- 小・中学校では、給食の残菜減少の取り組みを通じて、食への感謝の気持ちを育みます。

南丹市の取り組み

- 「弁当の日」を通じて、食の自立につながる一連の力をつけ、「生きる力」を育みます。
- 小学5年生、中学2年生の健康に関するアンケートを継続して実施していきます。



(4) 青年期 (19～39歳)

青年期は、身体発達が完了し気力・体力ともに充実した働き盛りの世代で、進学、就職、結婚、子育てなどにより生活環境が大きく変化し、自分自身の社会的な役割や責任を自覚する時期です。

一方で、外食や運動不足、喫煙、飲酒、ストレスなど生活習慣病のリスクを高める生活習慣におちいりやすい時期でもあります。生活習慣病を予防するためには、バランスのとれた食事を意識した食習慣を心掛ける必要があります。

取り組みテーマ

**おいしく たのしく「ごちそうさま」
食を楽しみ、自分と家族を大切に**

◆南丹市の現状と課題

多くの学生が通う南丹市ですが、学生力発揮のための参考として実施したアンケートの自由記載欄には、コンビニやファストフード店、おしゃれなカフェが欲しいなどの意見が多くあるように、学生が集って食事ができる場が少ないという現状があります。

しかし、コンビニやファストフード店の頻繁な活用は、栄養の偏りや生活習慣の乱れにつながり、中高年になってから生活習慣病を引き起こすなどの悪影響につながります。青年期が素材の良さやバランスのとれた食事を意識するため、健康や食生活に関する啓発や情報発信を効果的に効率的に継続して行うことが必要です。

また、多くの人が新しい家庭を持つ時期でもあります。自分や家族が健康な食生活を送るため、食材を選び、調理法を考え、実践していくことが必要となってきます。この時期は、子育ての時期でもあります。子育て、家事、仕事と時間に追われ忙しい中で、食生活は後回しになり、おろそかになりがちです。忙しい中でも実践できる調理法などの情報発信が求められます。

◆実践目標

- ①健康な食を再確認しよう
- ②忙しい中でも、食事を大切にしよう
- ③健康な生活習慣を身につけよう

◆今後の取り組み

市民の取り組み

- 家族や地域、仲間と楽しく食卓を囲もう。
- 1日3食、バランスの良い食事を改めて考えよう。
- 料理教室に参加し、楽しみながら学ぼう。

支援・促進

地域や関係機関・団体・教育機関の取り組み

- 大学や専門学校でバランスの良い食事の啓発を行います。
- 地元の食材を使ったレシピの紹介を行います。

南丹市の取り組み

- ウェブサイトやSNSの活用を検討するなど、若い世代に向けた効果的な情報発信を実施します。
- 健診や教室など、親子での取り組みの中で、食と健康の啓発を実施します。
- 尿中塩分測定等を通じて、自分自身と子どもの食生活を見直すとともに、減塩習慣を進めていきます。
- 食に関する正しい知識を持つ人を増やすため、若い層の食生活改善推進員を積極的に育成できるよう支援します。



(5) 壮年期 (40～64歳)

壮年期は、職場や地域などで中心的な役割を持つ世代であり、多忙なことから不規則な食生活になりやすい時期です。メタボリックシンドローム対策など、生活習慣病予防の観点から、生活習慣や運動習慣、食習慣を見直し、自分の健康状態に応じた食生活の実践が必要です。

取り組みテーマ

「ごんにちは」未来の自分 振り返り つなげよう つながろう

◆南丹市の現状と課題

壮年期は親となり祖父母ともなる年代であり、家庭や地域において世代をつなぐ要であり、食生活改善推進員養成講座を実施するなど地域の担い手の育成に取り組み食を通じた地域づくりを進めてきました。引き続き、担い手育成に取り組むことで食を通じたつながりを広げる必要があります。

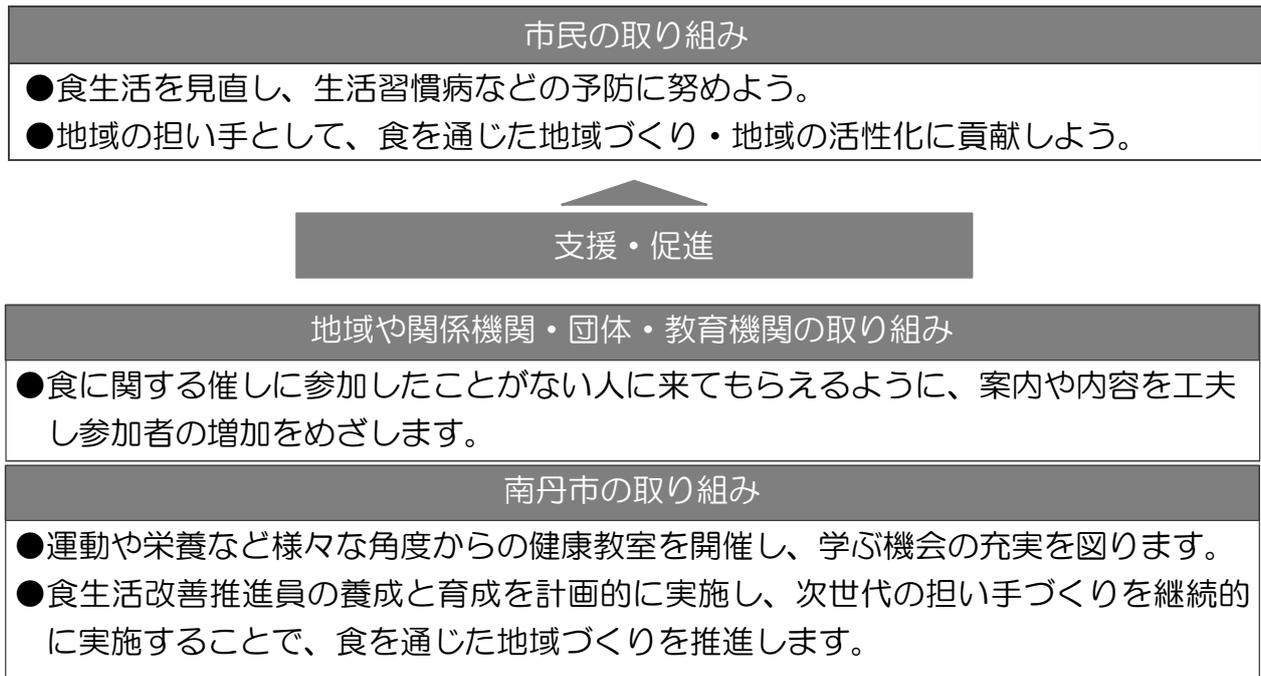
市民健診結果報告会では、食生活ふりかえりチェック表を活用し、個々の課題発見につなげています。この時期は、健康への関心が高くなっているものの、公私ともに多忙でもあるため、ふりかえる機会が持ちにくく、改善が難しい現状もあるため、的確な情報や学びの場を提供するなど、食を通じた健康づくりの取り組みを継続して行う必要があります。



◆実践目標

- ① 健診などで自分の変化を知り、今までの食生活を見直そう
- ② 自分に合った食生活を、学び実践しよう
- ③ 地域の担い手として食を通じた地域づくりを進めよう

◆今後の取り組み



(6) 高齢期 (65歳以上)

核家族化が進み、高齢者世帯の増加が大きな問題となっています。高齢期は、身体機能の低下に加え、退職や社会的役割の減少などにより孤立する人が増える時期です。介護予防の観点からも、栄養バランスのとれた食事や人と食事をともにする機会を積極的に持つなど、健康を維持することができる食生活を実践することが必要です。

また、多くの経験を重ねて得た知識や地域の伝統を、次世代へ伝え継承していくことも大きな役割です。

取り組みテーマ

健康に「ありがとう」 伝えよう、受け継ごう、あなたの知恵袋

◆南丹市の現状と課題

食を通じた健康づくりや地域で食事を楽しむことができる機会づくりに取り組んできました。その過程で、食についてのアドバイスや簡単な調理実習を実施するなど高齢者に対する食育も進め、毎日元気に楽しく過ごせるように努めてきました。

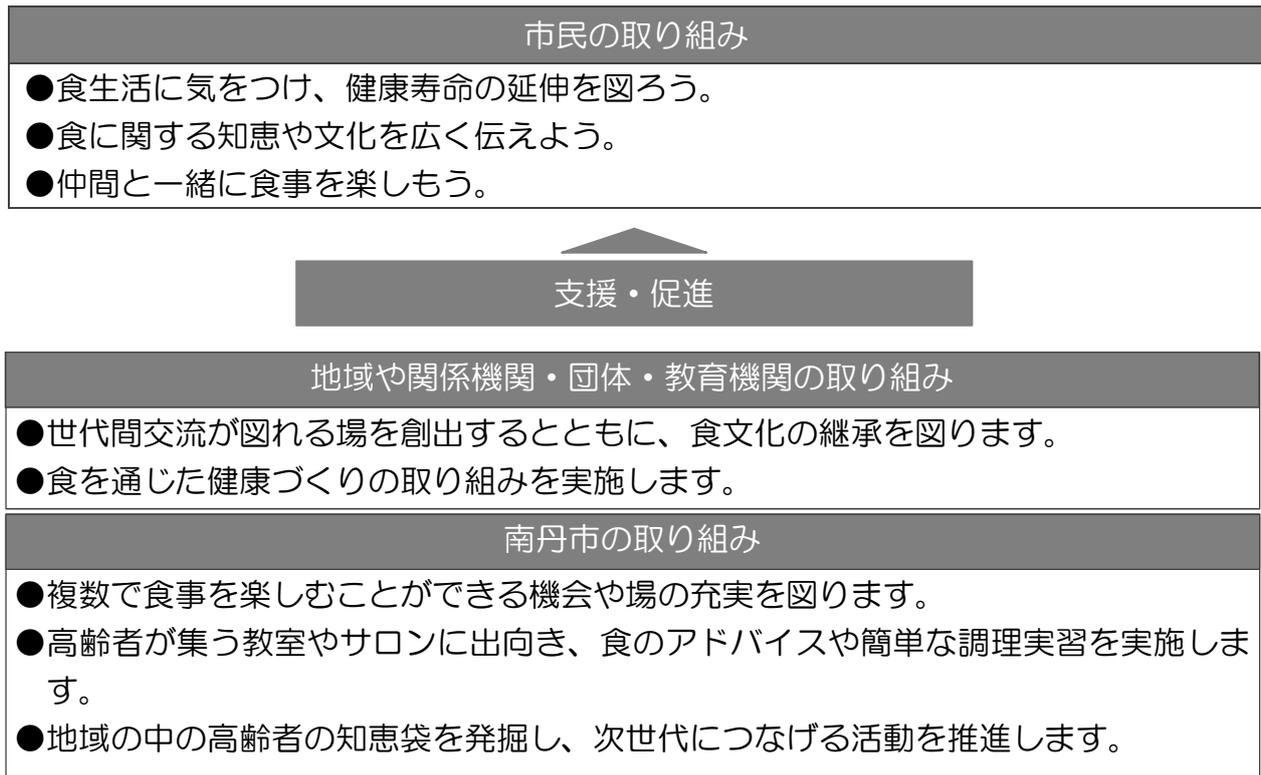
高齢者が持つ知恵や技術を、様々な世代と交流を図りながら次世代につなげ、高齢者自身も健康で心豊かな生活が送れる環境づくりが必要です。



◆実践目標

- ①健康で自立した生活を送ろう
- ②健康で楽しく、こころ豊かな食生活を送ろう
- ③先人の知恵や文化を、広く伝えてつなげよう

◆今後の取り組み



4. 食育推進計画評価指標一覧

■食育推進計画評価指標一覧

評価項目		資料(平成27年度)		現状値 (平成27年)		目標値
朝食をほぼ毎日食べる人の割合						
3歳半児		幼児健診問診票		98.3%		100%
保育所幼稚園		保育所食事調査		97.0%		100%
小学5年生		健康に関するアンケート		93.9%		100%
中学2年生		同上		86.1%		100%
20~39歳		市民健診問診票		男	78.5%	85.0%
				女	83.1%	
野菜を350g以上摂取している人の割合						
成人		食事診断		44.0%		現状以上
1日の塩分摂取量(尿中塩分)の目標を達成している人の割合						
成人	男	8.0未満	乳幼児健診保護者尿中塩分 測定結果(平成18年1月~12 月分)	男	52.8%	60.0%
	女	7.0未満		女	20.1%	30.0%
尿中ナトリウム比の目標を達成している人の割合(平成18年1月~12月分)						
成人	男	4.0未満	同上	男	51.9%	60.0%
	女	4.0未満		女	56.8%	65.0%
適正に体重が増加した妊婦の割合						
		赤ちゃん訪問結果		50.0%		60.0%

評価項目	資料(平成27年度)	現状値 (平成27年)	目標値
食育ロゴマークを申請している数(延数)			
	食育ロゴ申請	10	20
学校給食への南丹市産農畜水産物の供給品目数の割合			
	学校給食報告	25.4%	30.0%
「弁当の日」を実施する学校の数			
	「弁当の日」実施結果	4	現状以上
1日に1回以上家族と食事をする割合			
小学5年生	健康に関するアンケート	96.8%	100%
中学2年生	同上	93.2%	
食事づくりの手伝いをする小学生の割合			
小学生	「弁当の日」アンケート	66.0%	80.0%
食事のことについて家の人と話す小学生の割合			
小学生	「弁当の日」アンケート	42.0%	60.0%
学校給食の1食あたり一人平均残菜量			
	学校給食報告	1.5g	現状以下